

平成28年度 南アルプス市立落合小学校 後前期自己評価書	平成29年1月10日
学校長 笹本 仁	記述者 教頭 新津友子
学校教育目標 「心豊かで たくましく よく学ぶ児童の育成」	
◇本年度の取組重点	
<p>①どの子にとっても分かりやすい授業をめざし、基礎基本の「習得」とそれらを「活用」しての「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。(特にすべての学習の基盤となる読み・書き・計算力は9割以上の定着を図る)</p> <p>②授業の中で積極的な生徒指導を行い、いじめ・不登校のない学級・学校を目指す。</p> <p>③通常学級・特別支援学級の連携をふまえ、特別支援教育推進に向け校内支援体制の一層の充実を図る。</p> <p>④「落合小生活のきまり」「落合小学習のきまり」を学校生活の基とする。また、児童とともに「落合小こびっとルール」を作り、これに全員で取り組む。</p> <p>⑤読書習慣、辞書利用習慣、家庭学習習慣を含めた学習習慣を育成する。また、学習に主体的に取り組む学習習慣を育成する。</p> <p>⑥生涯を通じて健康な生活を送るために必要な食習慣、衛生習慣、運動習慣等の生活習慣を育成する。</p> <p>⑦児童会活動を通して、より良い学校生活づくりのために協力して諸問題を解決していく力を育成する。</p> <p>⑧「地域ふれあい道徳事業」「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」に取り組む。</p> <p>⑨安全点検・登下校指導・避難訓練を計画的に行い、安全・安心な環境で生活できるようにする。</p> <p>⑩情報を積極的に発信・受信して家庭・地域・関係機関との連携を深め「開かれた学校づくり」を推進する。</p>	
I 全体評価	
<p>今年度は、「本年度の取組重点」を意識して評価項目の文言を変更した昨年度の経過を受け、「本年度の取組重点」を意識して評価を行った。自己評価は、【A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない】の4段階評価で実施した。</p> <p>本年度第2回の自己評価結果は、総合的に見ると多くの質問内容で、肯定的な回答が大勢を占め、3項目が、前期に比べて評価が高くなっている。( )内は前期</p> <p>「学校教育目標」 ①～④ A・B：96% (93%)</p> <p>「学校経営・組織」 ①～⑥ A・B：95% (93%)</p> <p>「学習指導・生徒指導」 ①～⑥ A・B：96% (97%)</p> <p>「地域との連携」 ①～⑤ A・B：98% (100%)</p> <p>「学校の特色」 ①～③ A・B：95% (94%) となっている。</p> <p>いずれの項目においても、肯定的な意見が90%を超える結果となった。</p>	
II 各項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)	
1 「学校教育目標について」	
達成状況	<p>・①②④の項で、C「ややそう思わない」という評価があった。</p> <p>①「学校教育目標達成のため、実態に即した学校経営構想《グランドデザイン》が作成されている。」について、C評価1名。</p> <p>②「学校経営構想《グランドデザイン》に基づき、全職員が呼吸を合わせ、協力して学校運営が行われている。」について、C評価1名。</p> <p>④「PDCAのマネジメントサイクルで教育活動が取り組まれている。」について、C評価1名。</p> <p>③「学年の教育活動が、学校経営構想《グランドデザイン》を踏まえたものになっている。」については、肯定的評価100%であった。</p>

	<p>「大きなものではないにしても、いじめが存在することに全校で取り組まなければならない。学級集団作りに重きをおいていきたい。」 という意見があった。</p>
改善策	<p>・常に全職員でしっかり対応しているが、いじめについては更に敏感になる必要がある。小さなひとこと、小さな行動に敏感に反応し、小さいうちに指導する。また、欠席についてもすぐに働きかけをし、数日で学校に来れるようにしたい。それらの地道な取組が学校の心・姿勢・方針の表れであり、その取り組み方が学校の教育力を向上させるのか下降させてしまうのか、大事な分岐点になる。今後も全職員で子どもたちを見守り、協力して取り組んでいく。</p>
2	「学校経営・組織について」
達成状況	<p>・①②③⑤⑥の項で、C「ややそう思わない」D:「そう思わない」という評価があった。 ①「学校経営構想《グランドデザイン》に基づき、各校務分掌が機能している。」について、D評価1名。 ②「相談、連絡、報告が遺漏なく確実に行われている。」について、D評価1名。 ③「会議は能率的・建設的に行われている。」について、C評価1名、D評価1名。 ⑤「事件・事故や災害発生の際に、適切で迅速な対応ができるよう役割分担が明確化されている。」について、C評価1名。 ⑥「校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理（整理・保全）している。」について、D評価1名。</p> <p>「有事の際に果たしてどれだけ機能できるのか（自分でも）自信がない。」 「いろいろある中で、校務は機能している。過重負担を請け負っていただいて感謝しています。」 という意見があった。</p>
改善策	<p>・足りないところは補い合いながら、全職員力を合わせ、学校教育目標の達成のために責任を果たすべく取り組んできた。今後も不安なく仕事ができるように、相談・連絡・報告・提案等できることを積み上げながら教育活動に取り組んでいく。</p>
3	「学習指導・生徒指導について」
達成状況	<p>・①③④⑤については「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。 ②「授業の中で積極的な生徒指導を行い、いじめ・不登校のない学級・学校を目指している。」については、C評価2名。 ⑥「通常学級・特別支援学級の連携をふまえ、特別支援教育推進に向け校内支援体制の一層の充実を図っている。」については、C評価2名。</p> <p>「各行事や催しのねらい、目的を明確にして理解したい。」 「目ざしている事と達成できている事は別。指導を継続し、学習・生徒指導についての課題が達成できるようにしたい。」 という意見があった。</p>

改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習する児童の様子から、2学期のチャレンジルームの改善はとても良かったと考えている。漢字チャレンジについても改善を考えている。学力向上に繋がる結果が得られるように改善にも取り組んでいく。</li> <li>・学習指導,生徒指導の両面から、「忘れ物ゼロ」に取り組む。忘れ物は学力の基本ともいえる内容であり,児童が忘れ物をしないという気持ちを持って学ぶことにより,学習に対する意識を高め,意欲向上に繋げていきたい。</li> </ul>
4 「地域との連携について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①②③については「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。</li> <li>④「PTA活動のよりよい推進のため、教師・保護者が積極的に関わるように努めている。」について、C評価1名。</li> <li>⑤「児童生徒の安全確保に地域・保護者が積極的に関わってもらえるように努めている。」について、D評価1名。</li> </ul> <p>「すもも応援団の方々がとても協力的でありがたい。」  「保護者や地域の力を活かすように努力していると思う。これからは更に地域の力をお借りするために職員も地域へ出る事も大切になる。」  という意見があった。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も「学年だより」「学校だより」等により発信するとともに、保護者や地域の感想や意見を受信し再発信していく。</li> <li>・保護者や地域の意見に丁寧に対応することで、信頼される学校づくりを推進する。</li> <li>・市文化財課や社協の方々の尽力により、貴重な学習や体験をさせていただいている。今後も地域の人材や施設を活用するなど、地域の教育力を生かして学びを深めていく。</li> <li>・落合すももの里応援団の応援がありがたい。ボランティアの方々に喜んでいただけるような学校づくりを進めていきたい。</li> <li>・HPの充実</li> </ul>
5 「学校の特色について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・②については「A：そう思う B：ややそう思う」という評価であった。</li> <li>①「個に応じ、特性に対応した指導・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境づくりに努めている。」について、C評価1名。</li> <li>③「地域ふれあい道徳事業・小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」に取り組んでいる。」について、C評価1名。</li> </ul> <p>「これからの課題となる項目になると思う。特にユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを道徳科（特別の教科道徳）や英語科に取り入れることや,地域を活かす道徳の教材作りなど。」という意見があった。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育は本校の特色の一つである。特別支援学級においても通常学級においても、個に応じ特性に応じた指導について研修を深め、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを道徳科（特別の教科道徳）や英語科においても実践力を身につけていくとともに,学びやすい環境もつくっていく。</li> <li>・各学年の総合的な学習において地域を教材として取り上げている。今後も学年を超えて情報交換しながら地域教材を開発し、郷土を誇りに思えるような実践を行っていく。</li> <li>・教育を語る会など,今ある活動に工夫を加え,学校・家庭・地域の連携を図る場となるような取組をしていく。(保護者ととともにスマホ等情報に関わる教育・心の教育等・安全に関わる教育等)</li> </ul>

### Ⅲ 児童及び保護者へのアンケートによる評価

#### 1 「学校生活について」(児童アンケート項目：①，⑩，⑪，⑫)

◇「①学校が楽しいか」の項目は、児童は86.7%，保護者は91%が肯定的であった。

◇「⑩掃除活動」「⑪きまりや約束」「⑫児童会活動・学校行事」の項目は、90%以上の児童が肯定的な回答である。ただ、「⑩掃除活動」は前期は98.5%の児童が肯定的評価であったが、後期は肯定的評価が94.4%になっており、指導が必要である。

#### 2 「授業について」(児童アンケート項目：③，⑤)

◇「③授業がわかるか」の項目について、児童は92.9%，保護者は95%が肯定的であった。

◇「⑤授業中の発言」の項目については、2学期の重点目標であった。肯定的な回答は72%になり、3%肯定的評価が増えている。

・校内研究や授業改善の成果が上がるように更に努める。

#### 3 「友達・教師との関わりについて」(児童アンケート項目：②，④)

◇「②仲良く遊ぶ友達」の項目は、肯定的評価が99.1%となり前回より改善されている。

・全体としては、概ね良好な関係が築かれていると考えられるが、児童の行動や様子を観察し、いじめ等重大事案が生じないようにすることはもちろん、良好な関係づくりができるように適切な対応を迅速に行っていく。

・職員全員で情報交換を行い、気になる児童や出来事には全職員で対応していく。

◇「④困ったとき話ができる先生」の項目は、肯定的な回答が84.1%となっている。

・担任だけでなくすべての教職員が児童とのふれあいを大事にしていく。8時10分に正面玄関を施錠することにより、8時10分以降に登校する児童や保護者に話を聴くことができるようになった。遅れてくる児童には何等かの理由があり、児童に寄り添うことにもなっている。

・児童の「困った」に気付き、対応できるようにきめ細かい児童観察を行い、問題が大きくなる前に全職員で共有し、統一した指導をしていく。

#### 4 「家庭での様子」(児童アンケート項目：⑥，⑦，⑧，⑨)

◇児童アンケート「宿題の他に家で自主勉強をしますか」は、2学期の重点目標であった。肯定的評価は90.6%となり、前回の肯定的評価62.9%を大きく上回った。保護者アンケート「基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身についているか」についても、肯定的評価が81%となり、前回の76%を上回った。

・家庭での学習については本校にとって最も大きな課題ととらえ、職員会議で課題を共有し、今後の目標、改善策を明確にして取り組んでいく。

◇「地域の人にあいさつをしているか」についての肯定的評価は、児童が96.1%，保護者は83%である。児童の挨拶については地域の方にも、お褒めの言葉をいただいている。

◇スマホ・携帯所持人数は、28名で2名増えている。これは、全校児童の約22%である。そのうちルールがあるのは75%である。

・全校児童と保護者、及び5，6年生の児童保護者対象の学習会を確実にしていく必要がある。

## V まとめ

○2学期の重点目標「授業中に発言や質問を言うことをする。」「宿題の他に家で自主勉強をする。」について、大きな成果が見られた。全職員の共通理解のもと、今後とも「3学期からの取組重点・具体的な改善策まとめ」に示す内容について改善しながら取り組んでいく。  
また、肯定的評価が4%減になった「⑩掃除活動」についても取り組んでいく。

○児童の安全に関わって…ヘルメットの着用を進める。

○教職員の自己評価・保護者アンケートともに、全体的に肯定的な評価が多い。A評価が低い項目もあるので、さらなる学校教育活動の充実を目指し取り組んでいきたい。

○教職員一人一人が日頃の教育活動を見直していくとともに、それぞれの校務分掌において具体的な改善策を提案し、全職員で共通理解して取り組んでいきたい。

○この結果を資料として学校関係者評価委員会に提案し、意見聴取・交換会等を実施する

### < 3学期及び次年度に向けた取組重点・具体的な改善策まとめ >

1 児童アンケート「授業中に発言や質問を言うことをしますか。」

改善方向にあるので、更に児童が満足し自己肯定感を高めることができるように、取組を強化していく。

2 児童アンケート「宿題の他に家で自主勉強をしますか。」

大変大きな成果が見られ、改善方向にある。更に児童が満足し自己肯定感と実力を高めることができるように、取組を強化していく。

3 学力向上・心の教育の側面から

①チャレンジルームの改善, 漢字チャレンジの改善, 家読の改善等, 結果が見える取組にするために再考する。

②学習指導, 生徒指導の両面から, 「忘れ物ゼロ」に取り組む。

③生徒指導の側面から, 「⑩掃除活動」に取り組む。

4 児童の安全に関わって…ヘルメットについて

児童回答	…自転車に乗っている人数	86人
	ヘルメットを被っていない	19人

保護者回答	…自転車に乗っている	93人
	ヘルメットを被っていない	14人

○ヘルメット着用について、保護者と児童に隔たりがある。また、持っているのに被っていないことを把握している保護者もいる。ヘルメットについての指導が必要である。

5 地域との連携

・ HP の充実

何を知らせるか・掲載するか 原案を作成する。